

# Mark Twain における西部

— Roughing It と Life on the Mississippiを中心として —

有 川 昭 二

## 1 Wanderlust

### (1) Nevada

Nevada 州はもともと Utah 州の一部で Carson County と呼ばれ、そのある場所は乾草の豊庫として、モルモン教徒の牧畜業者や農夫を惹きつけていたが、California からの植民者はごくわずかしかなかった。しかし1858年にそこで銀鉱が発見されると、富を求める Californian が続々と植民し始め、その数は忽ちのうちにモルモン教徒を圧倒し、Brigham Young (モルモン教の王様) 及び Utah 州から独立したいという気運が生まれ、特にその "Washoe" (Nevada の別名) 地方のために、territorial government が住民によってつくられた。そのうちに連邦政府が Nevada を Territory として認め、リンカーン大統領は Governor として J. W. Nye を派遣した。その頃この地方の人口はおよそ12,000~15,000で、更に急速に増加しつつあった。

### (2) Silver fever

1861年7月、Governor Nye によって secretary として招かれた兄 Orion について、首都 Carson City に来ていた Mark Twain は、暫く "the States" に帰る事を延期し、兄の private secretary として閑職を楽しむ事となった。その Mark Twain をまず襲ったのが、一かく千金を夢みる silver fever であった。その頃 Gold and Curry 鉱山で、鉱区の1立方フィートの価格400~500ドルであったのが、2か月の間に倍になり、又 Ophir 鉱山では、取るにも足りない価格のものが一年の間に4,000ドルにはね上がった。又無一文の男が鉱脈を掘りあて、6か月してそれを40,000ドルで売ったし、夫が喧嘩で殺された時にはクレープのボンネットさえ買えなかったある未亡人が、"strike it rich" して10立方フィートを18,000ドルで売ったりした。これらの話で Carson City は沸き返り、事実鎗塊のような大きさの銀塊が、毎日馬車を連ねて鉱業所から送られて来ていた。二三日おきに新しい鉱脈が発見されると、すぐ新聞がそれを取り上げ、その豊富さを書きたてる。するとその権利を確保するために、町の人々が殺到する。

Mark Twain がかなりこのような silver fever に感染

した頃、Esmeralda 地方と Humboldt 地方が新たに脚光を浴びていた。特に後者は silverland の最も新しい、最も豊富な、最もすばらしい発見として注目され、例えば Gold Hill の鉱石は、100ポンドの鉱石から1~2ドル分の銀しか出なかったのに、同じ分量の Humboldt の鉱石は200~350ドル分の銀を産出すると新聞に書きたてられた。Mark Twain はこの記事を読んで、すぐ Humboldt 行きを決心する。老かじ屋と二人の弁護士と一緒に四人で prospecting party を組織した。200マイルの行程を15日かかって歩き——2頭の駄馬は全然使いものにならず、人間が馬車と馬をひいて歩かねばならなかった——12月の吹雪の真只中に Unionville, Humboldt County についた。その村はひび割れたように深く落ちくぼんだ谷底にあり、11軒の丸太小屋と1本の liberty pole から成り立っていた。一行も小屋を建てて採鉱を始めるのだが、山頂にゴロゴロと転がっている銀塊が、日の光をうけてキラキラ輝くのを夢想していた Mark Twain の期待は完全に裏切られる。金片を見つけたと思って胸おどらせる Mark Twain の姿は、何か象徴的ですらある。

By and by, in the bed of a shallow rivulet, I found a deposit of shining yellow scales, and my breath almost forsook me! A gold-mine, and in my simplicity I had been content with vulgar silver! I was so excited that I half believed my overwrought imagination was deceiving me. Then a fear came upon me that people might be observing me and would guess my secret. Moved by this thought, I made a circuit of the place, and ascended a knoll to reconnoiter. Solitude. No creature was near. Then I returned to my mine, fortifying myself against possible disappointment, but my fears were groundless — the shining scales were still there. I set about scooping them out, and for an hour I toiled down the windings of the stream and robbed its bed. 1)

しかし持ち帰ったものが雲母の破片だと分り, "All that glitters is not gold" どころか, "Nothing that glitters is gold" の真理を思い知る。

So I learned then, once for all, that gold in its native state is but dull, unornamental stuff, and that only low-born metals excite the admiration of the ignorant with an ostentatious glitter. 2)

又ここにこそ鉱床が横たわっていると思って、日数をかけて山頂から穴をうがち、山裾からトンネルを掘ろうとするが、それが出来ない。結局 Mark Twain は, silver-mining で成功する秘訣は、自ら汗を流して採鉱するのではなく、有望な鉱脈を見つけ出して他人に売りつける事であるのを悟って、Unionville を去る。

Mark Twain は次に Esmeralda に出かける。兄と共に投資していた鉱山を見まわるためであったが、現場では資金が有効に使われているどころか、その日その日の食い代になっているのが分かった。又 Humboldt で悟った、自分で有望な鉱床を見つけて他人に売りつけるという事も出来ず、結局週給10ドルのまかないつきで精錬所の職工となった。battery という鉄の箱の中で同じ鉄製の6本のきねが蒸気で重々しく上下し、投げ込まれた鉱石を碎き、絶えず注ぎ込まれる水によって、クリーム状のねりものが出来上がる。それは目の細かな金網を通して、amalgamating pan 一過熱状態で熱せられている巨大な桶一に流し込まれ、mullers で絶えずかき回される。battery でも pan でも水銀が加えられる。この amalgamation を助ける、つまり precious metals である金、銀を被っていて、それらが水銀と結合するのを妨げる base metals を破壊するために、更に時々粗塩や硫酸銅も加えられる。桶の中の pulp は一日に何度か溶解度が調べられる。すくい上げた pulp を horn spoon に入れて辛抱強く少しずつ洗い流すと、後には小さな球状の水銀だけが残る。その粒が柔らかで脆ければ、digestion を助けるために粗塩や硫酸銅などが加えられ、又手触りがぶりぶりしていて凹むなら、目的は達せられたわけで、更に新たに水銀を加えればよい。一週間して機械を止め、pan からも battery からも pulp をすくって取り除き、入念に clean up すると、下に水銀塊が姿を現わす。それを小片に千切って、重くひきしまった snowball 状のものをつくる。Mark Twain は手で揉むこの作業で、水銀によって純金の指輪を食いつぶされている。最後に鉄製のレトルトに入れられ、高熱を加えられると水銀は分離され、後に一週間の成果である, a lump of pure-white, frosty-looking silver, twice as large as a man's head——そして恐らくこの<sup>3</sup>は

金である——が残る。これがレンガ型の鑄型に流し込まれて、製品となる。この間の付随的な作業として、pan から濁水を流す木製の桶に仕かけられた目の粗い毛布や riffle (棧) を毎日夕方きれいに洗う仕事がある。それらにひっかかった precious accumulations を集めるためである。又手があいている時には、濁水が棄てられる ravine に出かけ、真すぐ立てられた金網に柄の長いシャベルで砂をぶっつけ, "screen tailings" (屑をふるう) しなければならない。この amalgamation の過程には、製品である銀塊の金、銀の含有率を調べる fire-assay が含まれる。先ず切り取った銀塊の一片を紙のように平たくのばし、それに鉛の小片を包み込んで、骨灰で出来た cupel という小さな容器の中で高熱で溶かす。すると鉛と一緒に銀塊中の base metals は酸化して分離し、後には純金、純銀の粒が残る。それを再び薄くのばし、高熱で熱してから冷ましたものを硝酸の入ったガラス容器の中で更に熱すると、銀は溶けて金だけが残る。次にその銀の溶液に塩水を加えると、銀が再生されて底に沈む。このそれぞれの段階で重さを計れば、試金の目的は達せられるわけである。鉱山の値打ちは一にこの fire-assay の結果にかかっていた。試金の結果さえよければ、全く無価値の鉱山でも高値で売れる事が出来た。それ故 speculative miner は鉱区を全体として探すよりは、只一片の良質の鉱石を見つける事に躍起となった。一方 assaying は儲かる商売であったが、中にはインチキな業者もいた。非常に繁盛して、仕事を独占しかねないある assayer が同業者達から怪しまれ、腕を試される事になった。一人のお客に事情を打ち明けて、大工の使う「丸トイシ」の一片を assay して貰った。その結果によると、「丸トイシ」のその岩石1トンには銀で1,284.40ドル、金で366.36ドル分が含まれているという事であった！ Mark Twain は朝6時から夜暗くなるまで働きずくめの, dreary で laborious な精錬所の仕事に度胆を抜かれ、たった一週間で止めてしまった。

Mark Twain は次に cement-mineを探す事に silver feverの最後の夢をかけた。Esmeralda地方に、Mono Lakeの近くの山の中にその<sup>3</sup>は金鉱が混在しているセメントの鉱脈が横たわっているという噂が流れていた。20年以上も前、移住の途中で Indian から襲撃され、山中に逃れた三人のドイツ人兄弟がそれを見つけ、その中の一人だけが餓死寸前の状態で California の開拓地にたどりつき、やっと持ち帰った2, 3個のセメントの鉱石を人々に見せた。しかしそれ以上詳細な事は公にされず、地図その他が与えられたのは、只一人Whitemanという人物だけであった。そして "marvelous Whiteman cement-mine" という言葉が囁かれ始めた。その

Whitemanが真夜中に変装してこっそり通って行ったという噂が流れると、Esmeralda地方ではすぐさまcampがたたまれ、金住民がそれを追って出かけるという情景が見られるようになった。Mark Twain は二人の男— いずれも Whiteman を知っており、容易に cement expedition についてのニュースを掴む事が出来た— と組んで行動する。当時 Wide West Company という鉱山会社が当たりに当て、株はうなぎ上りに上がり、金住民を興奮の坩堝に投げ込んでいた。しかしそれを眺める Mark Twain の心は非常に暗いものであった。

The world seemed hollow to me, and existence a grief. I lost my appetite, and ceased to take an interest in anything. Still I had to stay, and listen to other people's rejoicings, because I had no money to get out of the camp with.3)

その時、連れの一人 — Mr. Higbie — が Wide West Company の鉱区の下に、地上に露出していない blind lead の鉱床を発見した。それは上盤にしる下盤にしる、申し分のない 100万ドル相当の代物であった。天にも昇る気持になった Mark Twain は勿論眠るところの話ではない。

The floorless, tumble-down cabin was a palace, the ragged gray blanket silk, the furniture rosewood and mahogany. Each new splendor that burst out of my visions of the future whirled me bodily over in bed or jerked me to a sitting posture just as if an electric battery had been applied to me. 4)

噂が広まると、裏書きなしの手形で 300ドルの馬を買ってくれという男が現われたり、肉屋は代金の事は何も云わないで、いつもの二倍の量の肉を与えたりした。新鉱発見者は10日以内に所定の手続きをすまして初めてその所有権が確立される筈であったが、その翌日の午後、早速手続きをすます段になって、二人は非常なへまをやらした。Mark Twain は Captain Nye— Governor Nye の兄弟で、Esmeraldaに来る途中道連れになり、世話になった— の看病に急遽駆けつけねばならず、生憎留守の Higbie に手続きを頼む旨の走り書きを残して小屋を出る。そして9日間看病して、10日目の夜おそく帰ってくる。ところが小屋には、色青さめ、やつれた Higbie が悄然と突っ立っている。Mark Twain が次のような note を手にしたのは、期限を一時間も過ぎてからであった。

Don't fail to do the work before the ten days expire. W. (Whiteman) has passed through and given me notice. I am to join him at

Mono Lake, and we shall go on from there to-night. He says he will find it this time, sure. 5)

Higbie は窓硝子の割れ目からこの note を投げ込んだまま、9日間の徒労に終わった cement-expedition に出かけていたのだ。そして期限に5分か10分遅れただけであったが、現場に行ってみると、勿論 relocation を意味する他人の新しい notice が高々と掲げられていたのだった。

### (3) 新聞記者

Mark Twain は Nevada に来てから時々 Virginia City の Daily Territorial Enterprise 紙に投稿していたが、1862年7月、その編集長にすすめられて記者生活を送ることになった。記者生活に入るに当って、Mark Twain は珍らしく「夢」を抱いていない。それどころか、自分の inexperience と unfitness だけを意識し、記者になるのをためらってさえいる。しかし何としても、週給25ドルの魅力が堪えられなかった。荒くれ男たちにまじってシャベルを存分に使えない身に、背に腹はかえられなかったのである。記者としての Mark Twain は、別にこれという事件もないような時、fact より fancy を重んじた。例えば1台の hay-truck がのろのろと町に入ってくる。Mark Twain はそれを16台の手押車がそれぞれの方向から町に入ってきた事にして記事をつくる。或いは危険な Indian 部落をやっと通り抜けて来た幌馬車の一隊がいるとする。その中の1台が California に向けて出発し、もう町には帰って来ないのが分かると、早速それを史上稀な激しい Indian との闘争に投げ込み、予めその名簿を調べ上げておいた人々を殺したり、負傷させたりする。そして徐々に記者としての自信を深めていった。

My two columns were filled. When I read them over in the morning I felt that I had found my legitimate occupation at last. I reasoned within myself that news, and stirring news, too, was what a paper needed, and I felt that I was peculiarly endowed with the ability to furnish it. 6)

chief editor から才能を認められ、給料も週40ドルとなり、reporter として兄のいる Carson City に送られて州議会の模様を取材したりする。当時殆んど毎日新しい鉱山が発見される度に、先ず新聞記者が押かれる習慣があった。記者は鉱区の40~50立方フィート分の株を与えられたが、一方その鉱山の紹介記事を書かねばならなかった。鉱床の規模や tunnel やたて坑に関して、silver fever をいやが上にもあおり立てるようなそれ

らの記事が、Mark Twain にとっては云わばお手のものであったのは云うまでもない。既に Mark Twain のペン・ネームを使い始め、8か月もすると、西部のジャーナリズムにおいてかなり有名になっていた。もっともその名声は a perplexing mixture of the offhand, irreverent, profane, mad, laughable, and diabolic 7) としてであった。

Mark Twain 自身は

However, as I grew better acquainted with the business and learned the run of the sources of information I ceased to require the aid of fancy to any large extent, and became able to fill my columns without diverging noticeably from the domain of fact. 8)

と云っているが、この fancy の魔力は Mark Twain の記者生活に最後までついて回った。いわゆる (イ) "Bloody Massacre" 事件と (ロ) United States Sanitary Commission の基金問題である。9)

(イ) "Bloody Massacre" 事件…9人の子供のある、大人しくて気のよいある男が、大金を投資している鉱山会社の配当金のごまかしや、同じように関係しているある水利会社の詐欺行為でショックをうけ、精神錯乱をきたして殺人鬼と化し、自分の妻と7人の子供達を殺す。

Mrs. Hopkins (his wife) lying across the threshold, having been felled with an axe and scalped, her right hand almost severed; Mary, the eldest, fearfully mutilated, a knife thrust into her side; six children, brained with a club, dead in one room; everywhere, as evidence of struggle, a confusion of broken furniture and scattered clothes. Two children, though badly injured, survived. 10)

男は自分の喉をかき切り、手に血の滴り落ちる妻の頭皮を下げて、馬にまたがって Carson City の通りを疾駆し、ある酒場の前で瀕死の状態で倒れ落ち、5分の後一言もしゃべらないで息絶える。Mark Twain によって書かれたこの記事には、地名や人名におかしい点があって、最初から "as baseless as the fabric of a dream" と見破った新聞もあったが、ジャーナリズムの大部分及び世間一般では事実として受けとられ、一大センセーションをまき起こした。しかしその翌日、Mark Twain が記事取り消しの notice をのせると、今度は非難の矢が殺到し始めた。それらは "that silly lunatic," "the soul-sickening story," "this miserable creature," "a LIE—utterly baseless and without a shadow of foundation" 11) であった。

問題は単に個人攻撃だけにとどまらず、Enterprise 社の信用問題にまで発展し、Mark Twain は深刻に悩まねばならなかった。

(ロ) 基金問題…ある町の市長選に敗れた候補 (Democratic candidate) が勝者 (Republican candidate) から50ポンド入りのメリケン粉の袋をかつがせられ、バンドつきで町をねり歩く。その袋が競売にふされて、北軍の傷病兵救済のための基金にされる事になった。陽気で派手な事の好きな西部の住民全部がこの flour sack の行くえを見守り、新聞は逐一その動きを報道した。結局金のあり余った西部から、大金15万ドルが東部に送られる事になった。このお祭り騒ぎが終った直後、Mark Twain は酔ったまぎれに、flour sack の行列が Nevada の首都である Carson City を通らなかったのを、単なる噂にもとづいて戯れに次のように批評した。

The reason the Flour Sack was not taken from Dayton to Carson, was because it was stated that the money raised at the Sanitary Fancy Dress Ball, recently held in Carson for the St. Louis Fair, had been diverted from its legitimate course, and was to be sent to aid a Miscegenation Society somewhere in the East; and it was feared the proceeds of the sack might be similarly disposed of. 12)

舞踏会を主催した婦人連の中には、Mark Twain の義姉も入っていた。婦人を侮辱するこのような記事を書くべきではないとの同僚の忠告もあって、勿論原稿は没にするつもりであった。ところが誤ってそれが記事になってしまった。部屋に置き忘れたまま芝居見物に出かけた留守に、植字工が正式の原稿と勘違いしたのである。Mark Twain は厳しい世間の非難をうけ、ジャーナリズムは "Bloody Massacre" 事件を持ち出したりして、さもなりなんの態度をとった。この事件の後、2週間たたないうちに Mark Twain は Nevada を去った。

Mark Twain は1864年5月に Nevada を去るまで約2年間、新聞記者として西部の flush times の実態——Mark Twain がジャーナリズムに入ってから6か月して flush times が始まり、約3年間続く——に触れたのだが、その後は San Francisco に行って数か月間通した。そして銀山を New York で売る計画に加わって失敗したり、Golden Era 紙の記者になったり、California の金山の跡を訪れたりした後で

When my credit was about exhausted (for I had become too mean and lazy, now, to work on a morning paper and there were no vacancies on the evening journals), I was created San

Francisco correspondent of the Enterprise, and at the end of five months I was out of debt, but my interest in my work was gone; for my correspondence being a daily one, without rest or respite, I got unspeakably tired of it. I wanted another change. The vagabond instinct was strong upon me. Fortune favored, and I got a new berth and a delightful one. It was to go down to the Sandwich Islands and write some letters for the Sacramento Union, an excellent journal and liberal with employees. 13)

尚この記者時代に Mark Twain は他の文学者、Bret Harte や Artemus Ward と相識ようになり、特に後者からは文体や話術の点で強い影響を受け、更に東部のジャーナリズムに紹介され、寄稿するようになった事も忘れてはならない。

#### (4) 株

Virginia City では町中であらうと周囲の山腹であらうと、至る所で Wildcat miners (山師) がうろつき回り、試掘に夢中になっていた。皆 Comstock Load——豊富な鉱脈の mother vein が走り、既に Ophir とか Gould & Curry とか Mexican などの鉱山が develop されている——にありつこうと思っているのである。ここぞと思って穴が掘られると——それは単なる穴であり、決して鉱山などと云えるものではなかった——皆〇〇会社と名のり、"stock" を market に出す。その「株」の将来性、つまり shaft がしっかりした鉱床に行き着くのは分かり切った事なので、株価はすぐに数百ドル、或いは数千ドルにすらなってしまう。町の通りでは景気のいい男たちが友達に会い、ポケットに一杯詰め込んだ株券を、まるでリンゴ箱からリンゴを取り出して与えるようにプレゼントする光景が見られた。株価の値上がりも激しく、例えば1立方フィートあたり10ドル以下のものが、1週間で100ドルとなったり、又2〜3週間で600ドルとなったりした。Mark Twain は鉱山の紹介記事を書く度にこのような株をプレゼントされ、更にそれと同じ数量の株を知人から貰った。

I had a trunk about half full of "stock." When a claim made a stir in the market and went up to a high figure, I searched through my pile to see if I had any of its stock — and generally found it. 14)

そして西部の flush times はいつまでも続くものと思ひ、speculator よろしく株価の値上がりを待つようになった。そのうちに Nevada では準州から州への昇格運

動が見られるようになり、議会は state constitution を制定し、一定期間において住民投票によって採択の是非を問う事になった。Mark Twain は憲法支持派であったけれども15)、こと株に関しては一家言を有していた。州憲法が制定され、新しい州政府が出来ると、flush times は破壊されてしまうという考えである。それ故州政府が出来の前に持株の合計が10万ドルになったら、すぐ売り払ってしまおうと考えていた。10万ドルでは故郷に錦を飾る金額としては僅少に過ぎるのだが、周囲の状況がそれを許さないのだから仕方がなかった。しかしやがてその10万ドルにも達しないうちに——それは又、Mark Twain が Nevada を離れ、記者生活にも見切りをつけて San Francisco で株の値上がりに唯一の期待を寄せている時であった——金持連の反対にも拘らず一般大衆の圧倒的支持を受けて州憲法は制定されてしまった(Nevada はその翌月、1864年10月31日に合衆国で36番目の州となった)。災難は勿論疑問の余地はなかったが、直ちに訪れるようには思われなかった。

I hesitated, calculated the chances, and then concluded not to sell. Stocks went on rising; speculation went mad; bankers, merchants, lawyers, doctors, mechanics, laborers, even the very washer-women and servant-girls, were putting up their earnings on silver stocks, and every sun that rose in the morning went down on paupers enriched and rich men beggared. What a gambling carnival it was! Gould & Curry soared to six thousand dollars a foot! And then—all of a sudden, out went the bottom and everything and everybody went to ruin and destruction! The wreck was complete. 16)

Mark Twain は殆んど無一文になってしまった。

#### 註

- 1) Mark Twain: *Roughing It*, Vol. I (Harper and Brothers), pp. 196—197
- 2) *Ibid.* pp. 199—200
- 3) *Ibid.* p. 272
- 4) *Ibid.* p. 276
- 5) *Ibid.* p. 284
- 6) *Ibid.* Vol. II, p. 7
- 7) Paul Fatout: *Mark Twain in Virginia City* (Indiana Univ. Press), p. 44
- 8) *Roughing It*, Vol. II, p. 8
- 9) (i), (ii)共に *Mark Twain in Virginia City* 第4章より大部分を引用

- 10) Mark Twain in Virginia City, p. 100
- 11) Ibid., p.103
- 12) Ibid., p.196
- 13) Roughing It, Vol. II, p.164
- 14) Ibid., p.19
- 15) Mark Twain in Virginia City. p. 147

His (Mark Twain's) contemporaries had no doubts about where he stood; they considered him, along with Stewart, a constitutional supporter.

- 16) Roughing It, Vol. II, p.137

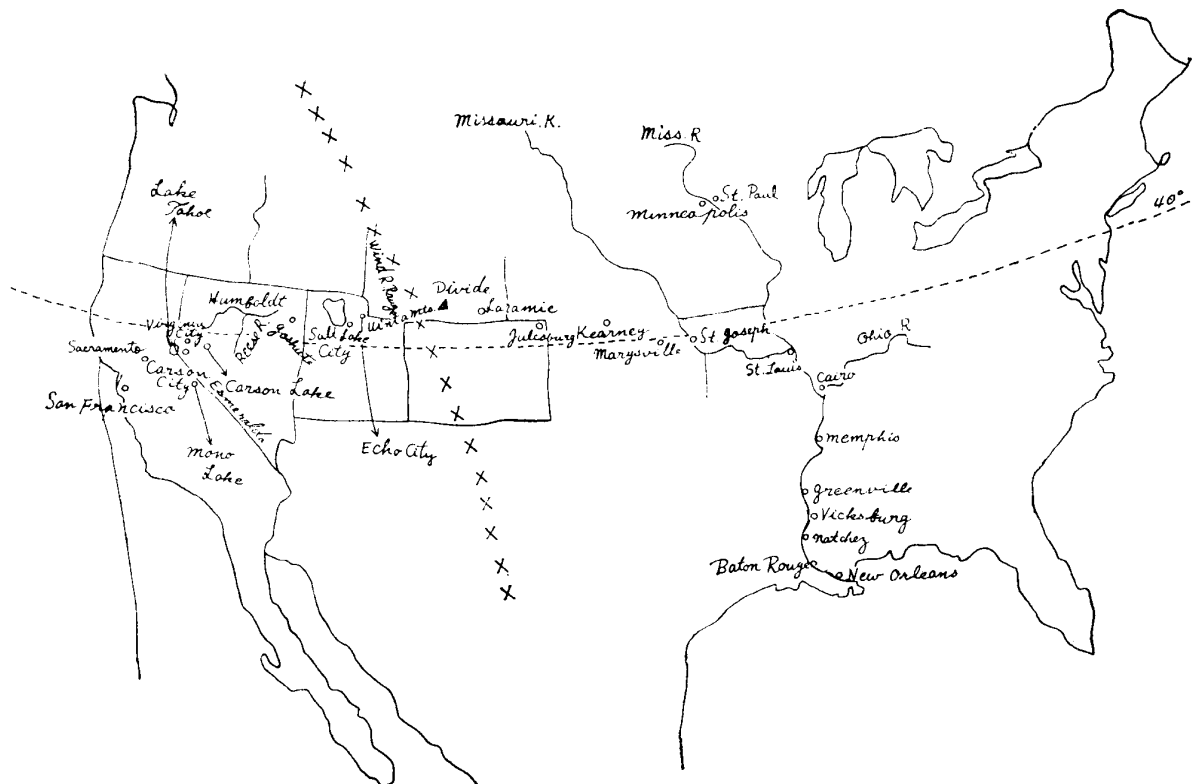
## II. Mark Twain における西部

### (1) Roughing It と Life on the Mississippi

Mark Twain は Mississippi 河で約2年半パイロットをしていたが、1861年 (Mark Twain 25才の時) 南北戦争が勃発し、河の通商が止絶えてしまうと失職し、兄 Orion について Nevada に旅行に出かける。ところがほんの3か月の予定であったその旅行が大いに狂って、数年間になってしまふ。Roughing It (以下 R. I. と略す) はその時の経験を書いた旅行記であり、1872年出版である。一方 Life on the Mississippi (以下 L. M. と略す) は Mark Twain が河を去って21年後に再び訪れた時の訪問記であり、1883年出版であるが、これには既に1875年に Atlantic Monthly 誌に連載された、Mark Twain のパイロット時代の決算報告書である Old

Time on the Mississippi が含まれている。R.I. は上下2巻に分けられ、それぞれ筆にいくらか緩急の違いはあるが、叙述は大体時間の継起に従って進められ、経験は車窓から眺める景色のように次から次と現われては消えてゆく。L.M. ではカメラに絶えず21年前の、或いは更に遠く Mark Twain の少年時代の光景が二重写しにされ、経験は陰影深い奥行を見せて、回顧的に、停滞気味に流れてゆく。パイロット時代に撫でるように愛し、暗闇であっても手探りで歩ける自分の家の玄関のようにあらゆる事を知りつくしていた Mississippi 河を、St. Louis を振り出しに Ohio 河との分岐点にある Cairo を通って Memphis, Greenville, Vicksburg, Natchez と南下し、木蓮の花の香がむせかえるような Baton Rouge から河口の町 New Orleans に達して、そこを見物する。そこから St. Louis にひき返すと更に北上して故郷 Hannibal に達し、そこに3日間滞在した後、St. Paul 及び Minneapolis まで行く。St. Paul と New Orleans との距離は2,000マイルあり、結局旅は日程15日、行程5,000マイルに及ぶ極めて楽しい旅になった。

R. I. では先ず St. Louis から Missouri 河を溯り、6日間の沈み木や砂洲だけが目につく退屈な船旅の後、Missouri 州西端の St. Joseph につく。R. I. の旅はその St. Joseph で Nevada 行きの大陸横断の駅馬車に乗り込むところから始まっている。Kansas 州 Marysville から Nebraska 州に入り、1) Fort Kearney, Colorado 州 Julesburg (或いは Overland City),



Wyoming 州 Fort Laramie, それから Rocky 山脈に入って分水嶺に達し, Wind River Range と Uinta Mts. を左右に見て, Echo Canyon から Salt Lake City に達する。St. Joseph を出て11日目である。Salt Lake City に3日間滞在してモルモン教徒を観察し, 更に Nevada 州に入り, Reese River を渡り, Carson Lake がその端にある the Great American Desert を越えて目的地 Carson City に20日目に着いている。上巻はこの Carson City から Tahoe 湖や Mono 湖に出かけたり, Humboldt や Esmeralda に出かけて金鉱や銀鉱を探したり, 或いはセメント鉱を求めたりして一かく千金を夢見るが, 失敗するところで終わっている。下巻は Enterprise 紙の City Editor として Virginia City に行くところから始まっている。それから4年間の記者生活が続くわけであるが, ふとした行き違いから San Francisco で生活するようになり, Calaveras County など California 州の Gold Rush の跡をつぶさに観察したり, 或いは Sacramento Union 紙の記者として Hawaii 諸島に出かけたりする。

さてパイロットにしる, 大陸横断の旅にしる, いずれも直接的には西部育ちの青年の夢から生れたものであり, その上 R. I. が Flush Times of Alabama and Mississippi を著わしたある南部出身の弁護士によって触発され, L. M. は雑誌社の要請によって生れたものではあっても, これらの作品執筆の動機には Mark Twain の作家としてのはっきりした自覚があった。R. I. の序文には

Still, there is information in the volume; information concerning an interesting episode in the history of the Far West, about which no books have been written by persons who were on the ground in person, and saw the happenings of the times with their own eyes. I allude to the rise, growth, and culmination of the silver-mining fever in Nevada — a curious episode . . .

(underline は筆者)

この flush times の最盛期は1853年である。L. M. では piloting が如何にすばらしい科学であるかを述べた後で

I feel justified in enlarging upon this great science for the reason that I feel sure no one has ever yet written a paragraph about it who had piloted a steamboat himself, and so had a practical knowledge of the subject. 2)

Mississippi 河の Steamboating の最盛期は 1840~

1860年の間である。

Mark Twain はこのような作家としての自覚から, 対象は異なっても, それぞれ同じような観察眼を向けている。例えば大平原の hero である駅馬車の driver は Mississippi 河の hero である pilot と同じように表現されている。一人の馬丁が手綱を高く差し上げているのに, 高い御者席に着いてわざとゆっくりと手袋をはめている driver, その driver を他の馬丁や station-keeper が賞賛の眼をもってじっと見上げている——このような図はそっくりそのまま, steamboat の見上げるように高い場所にある操舵室で舵をとる pilot にも当てはめることが出来る。駅馬車の conductor も船の captain を連想させる。このような連想で面白く思われるのは, パイロットと新聞記者とのそれである。パイロットは piloting に当って, "I think so and so." という曖昧な言葉は使えない。須らく "I know it." と云うべきなのである。それと同じ事を, 新聞記者になった Mark Twain は chief editor から教えさとされている。

"Never say 'We learn' so-and-so, or 'It is rumored,' or 'We understand' so-and-so, but go to headquarters and get the absolute facts, and then speak out and say 'It is so-and-so.' Otherwise, people will not put confidence in your news. Unassailable certainty is the thing that gives a newspaper the firmest and most valuable reputation." 3)

もっとも Mark Twain 自身は, 西部の現実が求めているのはその certainty より寧ろ stirring news, sensational な news であるのを知り, 魚が水を得た思いで自分なりの仕事を始めてはいるが。その他鉱山関係の専門的な知識も pilot の専門的な知識と同様に完全に消化されている。大平原の真中にある駅馬車の発着所, その中の eating house の描写を見ても, L. M. の操舵室の描写や, 沿岸の代表的な住宅の詳細な環境描写と何ぞ変るところはない。総て同じ作家精神の, 或いは同じ作家的な抱負の所産であると云える。

しかしこのような本筋における類似点とは別に, 又違った点もある事に注意しなければならない。筆の調子に明瞭な違いが感じられる。二作品とも humor は相当に盛り込んでいるが, 現実の地域差を反映してか, いわゆる西部を描いた R. I. の方が, 南部を描いた L. M. に比べて, はるかに humorous な話 (tall tale) が多い。そしてそれぞれの話の後に, わざわざ「これは本当かどうか分からないのだが」とか, 「保証の限りではない」とかの但し書きがついていたり, 或いは逆に, 「これは本当の話なのだ」と妙に力んで, かえって humorous な効果

を与えたりしている。L.M.でこれらに匹敵するhumorと云えば、只一か所、Mark Twainが外遊の折、ミューンヘンの町で死にかかったある男から、Mississippi河畔のNapoleonという町に大金が隠してあると遺言で聞き、同伴者との間に降りる降りないのいざこざまで起こして上陸しようとするが、実はその町は既に河底に沈んでいたという話だけだと思う。要するにR.I.の筆はL.M.に比べてはるかに軽妙であると云う事が出来る。

## (2) Mark Twain における西部

M. Cunliffeは「アメリカ文学史」の中で西部について次のように云っている。

「アメリカのゴート国にはいくつかの全く似通っていない地域が含まれていた。例えばMark Twainの知っていた地域を三つだけあげてみても、古い南西部、鉱山フロンティア、太平洋岸がある。しかし我々は全地域を大ざっぱに西部又はフロンティアと呼んで、アメリカの方々の地方がなお植民の過程にあると定義しても差支えない。その多くは荒野で、最初の植民者が来るまではIndianと白人狩猟者と罌使いが少し住んでいた」4)

本論でもこのような意味でMark Twainにおける西部を規定し、その自然、社会、精神風土などについて簡単に述べてみたい。

R.E. Spillerは「アメリカ文学の展開」の中で、L.M.の前篇に当るOld Time on the Mississippiについて、「『白鯨』を除けばこの本ぐらい水びたしになっている本はまれであろうと思われる」5)と云っているが、後篇も含めてL.M.にはMississippi河の一切が、文字通り一切が表現されているという事が出来る。中でもその自然——嵐、増水、恐るべき洪水、霧、落日、大森林、早瀬、曲り目、島、沈み木、静寂、夜明けなど——実に生き生きと表現されている。R.I.では大平原を進むにつれて、体の大きなJackass rabbitやえだづのかもしかや痩せさらばえたcoyote、植物ではsagebrush——よもぎの一種で、Mark Twainはこのかん木の下に顔をつっ込んで地面に横たわり、羽虫や蟻の動きを眺めて、Lilliputにさまよい込んだ巨人に自らをたとえている——やbunch grassを見るようになる。Mark TwainはL.M.第45章(Southern Sports)で、自分の最も好むのはsteamboat raceであり、その次がmule race、更にcock-fighting(闘鶏)は、fox-huntingよりはまだまだしであるが、余りにも哀れな、痛ましい光景は最後まで見るに耐えないと云っている。そのMark Twainも、露のおりた清々しい大平原を馬で駆け回るbuffalo-huntはnoble sportであると云っている。8月のさ中、永遠の雪を頂くRocky山脈の山々を望見し、やがて峨々として聳え立つ山中に馬車を進め、遙かに続

く下界を眺めたり、足許は白日の明るさなのに、眼下の山々はいつの間にかかげっていて突然嵐に襲われ、岩角から岩角へ稲妻が走り、峡谷を雨がぬらし、雷鳴がとどろくのを聞いたりする。その他砂漠の苛酷な現実、喉の渇く、うだるような暑さの、物狂わしくもいまわしい砂漠の横断、砂塵もうもうたるNevadaの強風、海拔8,000フィート、その周りを更にそれより3,000フィート高い山々に取り囲まれ、気高く青い水をたたえたTahoe湖、或いはDead Sea of Californiaと呼ばれるMono Lake、更に遠方から眺める時が一番魅力的なCaliforniaの自然などがある。

西部の社会については、先ずL.M.の中のSt.Paulに對するMark Twainの感想を引用したい。St.Paulは1837年6月、Pierre Parrantというカナダ人がやって来て小屋を建て、酒だるの栓を抜き、Indianにwhiskyを売り始めてから開けた町である。それに関連して、Mark Twainはwhiskyこそthe earliest pioneer of civilizationであると云った後で

The missionary comes after the whisky — I mean he arrives after the whisky has arrived, next comes the poor immigrant, with ax and hoe and rifle; next, the trader; next, the miscellaneous rush; next, the gambler, the desperado, the highwayman, and all their kindred in sin of both sexes; and next, the smart chap who has bought up an old grant that covers all the land; this brings the lawyer tribe; the vigilance committee brings the undertaker. All these interests bring the newspaper; the newspaper starts up politics and railroad; all hands turn to and build a church and a jail — and behold! civilization is established forever in the land. 6)

ここにいわゆる「西部の社会」のパターンが示されている。しかしこのような社会が、実際に、しかも白日のもとにさらけ出された形で見られるのは、L.M.より寧ろR.I.の方である。敵意を抱くIndian countryやみじめなGoshoot Indian、或いは多少business化してはいるが、そしてMark Twainもhumorousな筆調で軽く流してはいるが、60名の合衆国軍隊といざこざを起こす400名のIndianの群れなどは、西部の社会の底辺をなすものであろう。その首に懸賞のついた御尋ね者しかいない地方や、4軒の掘って小屋から成り立ち、一人のprincipal citizenがhotel-keeper, postmaster, blacksmith, mayor, constable, city marshalなどを兼ねている所であっても、同じ社会に変わりはない。



Rocky 山脈の山頂におけるろばや牛など家畜の白骨、小石の間に逆さまに立てられた板切れ——世界中で最も淋しい墓地である——又 Great American Desert の足の踏み場もないような家畜の死骸や馬車の残骸は、初期の移住民の恐るべき苦しみと窮乏を物語っている。人を殺した者でないと尊敬されない殺伐な Nevada の社会においては、弁護士、編集者、銀行家、無法者、パクチ打ち、酒場の主人などが兇等の勢力を有している。Virginia City の Enterprise 紙の記者達はピストルを下げていたし<sup>7)</sup>、横行する悪漢達に対して女性も武器を持つべきだという論陣を張ったりする。California のある undertaker は、Nevada を訪れた後で、ピストルが幅をきかしている Virginia City について次のように云っている。

"It's bully! the best business place I ever saw. If I had a shop there I could get 5 coffins a day to make." <sup>8)</sup>

一方荒れ狂う silver fever は

Joy sat on every countenance, and there was a glad, almost fierce, intensity in every eye, that told of the money-getting schemes that were seething in every brain and the high hope that held sway in every heart. Money was as plenty as dust; every individual considered himself wealthy, and a melancholy countenance was nowhere to be seen. <sup>9)</sup>

このような社会を生み出した。勿論 Gold Rush の潮の去った California の荒れ果てた一郭

...on a verdant hill side, and there were not five other cabins in view over the wide expanse of hill and forest. Yet a flourishing city of two or three thousand population had occupied this grassy dead solitude during the flush times of twelve or fifteen years before, and where our cabin stood had once been the heart of the teeming hive, the center of the city. When the mines gave out the town fell into decay, and in a few years wholly disappeared—streets, dwellings, shops, everything—and left no sign. The grassy slopes were as green and smooth and desolate of life as if they had never been disturbed. <sup>10)</sup>

に、独白の中に時々ギリシャ語やラテン語のまじる大学出の、夢に破れ、疲れ、あらゆる事に関心を失い、ただ休息と死だけを待っている、泥にまみれ汚れた miner が居るのも見逃す事は出来ない。

L. M. では事情が違っている。Mark Twain は既に南部にも息吹き始めていた19世紀の健全で practical な面——鉄道の発達、綿花や砂糖工場、土地会社の設立など——を好意的に、又敏感に感じとると共に、一方では Murrel's Gang や Memphis の yellow fever や feud (宿恨) など、一時代前の Mississippi 河周辺の暗い面を、frontier の胎内を覗き見るような形で、執拗に探っている。

西部のもつ精神風土については、てたらめな裁判や鉱山売買における不正(salt a mire), 決闘などに見られるばかげた殺伐さ、西部人のもつある種の誇り——pioneer 達は言葉遣いや金の使い方などですぐ新まいの移住者や旅行者を見分け、軽蔑した——更に苛酷な現実から生れる humor, 或いは方言の問題などをただ指摘するだけにとどめたい。

### (3) その意味

Mark Twain は豊かな湖面に厩厩の山々の姿をはっきりと映し出している Tahoe 湖の眺めや、the Upper Mississippi の夏の日没時の美しさを地上最高の美であると云い、又 Mississippi 河の thunderstorm はアルプス山脈のそれに優るとも云っている。このような西部の自然に対する純粋な愛情、それから生れる素朴な、しかし根強い自信、これこそ Mark Twain という作家の中核をなすものではないかと思う。そしてそれが外に向けられた時、The Innocents Abroadが生れてくる。たとえこの作品に、ヨーロッパ文明に対する Mark Twain の無知、それに由来する negative な価値しか認められないにしても<sup>11)</sup>、Mark Twain のこの愛情が変わりがあるわけではない。西部の確実な把握とその表現という役目を担う国民作家 Mark Twain の根底には、このような素朴な愛情があったのである。

さて西部経験の直接の所産である The Gilded Age の一部や、The Adventures of Huckleberry Finnについてはここで述べる必要もないとして、一見関係がないように思われる作品、The Prince and the Pauper や The Man That Corrupted Hadleyburg にも、この西部経験はひそかに織り込まれている。前者では物語の初めの Tom Canty が自分達の楽しみとして宮殿の前で王子に告げる、泥んこになって水浴びするという牧歌的な世界や、終の方の王子が真夜中に荒野を放浪して犬の啼き声を聞く場面は、Huckleberry Finn や Tom Sawyer のある場面を連想させるし、又後者では、big news の深夜の打電や、見知らぬ旅人からあずけられた大金を前にしての人々の心の動き——これは Nevada の山中で有望な鉱脈を探り当てた Mark Twain のそわそわ

した気持ちを思い出させる一も西部経験と関係がある。12) このように一見無関係に見える作品の中にも、地中深く眠っている鉱床のように、その西部経験が埋められている。それを掘り起こす事は、側面からではあるが西部経験のもつ意味を照らし出すのに役立つだろうし、又 **Mark Twain** の作家的資質を考える上で参考になると思われる。

註

- 1) 浜田政二郎「マーク・トウェイン—性格と作品」(研究社) p.74には、「ほぼ北緯40度の線に沿うて約1,800マイル」とある。因に、**St. Joseph** と **Sacramento** 間は1,900マイル、太平洋岸までは、2,000マイルである。
- 2) **Mark Twain: Life on the Mississippi** (**Harper and Brothers**) pp,81~82(underlineは筆者)
- 3) **Roughing It**, Vol. II, p.5
- 4) マーカス・カンリッフ「アメリカ文学史」(刈田 訳) 北星堂p.170
- 5) スピラー「アメリカ文学の展開」(吉武、待鳥共

訳) 北星堂p.176

6) **Life on the Mississippi**, pp.490~491

7) **Roughing It**, Vol.II, pp. 4~5

**Mark Twain** は最初は一人違った態度をとるのを嫌って皆と同様にピストルを下げていたが、やがてその必要もなく腰から外してしまう。

8) **Mark Twain in Virginia City**, p.60

9) **Roughing It**, Vol. II, p.12

10) **Ibid.**, Vol. II, p, 153

11) **Van Wyck Brooks : The Times of Melville and Whitman** (**Everyman's Library**), Chap. XIV **Mark Twain in the West**, p.304

12) 浜田政二郎「マーク・トウェイン—性格と作品」 pp.189~190には ハドリバークの町、更に **The Mysterious Stranger** の舞台 エセルドーフと、**Mark Twain** の故郷ハニバルとの関連が指摘されている。

後記……本論IIの部分は第18回英文学会九州地方大会で口頭発表したものである。